

さいごに

コミュニティの環境改善の具体的な事例として「プノンペン都コミュニティベースでの廃棄物管理改善～ Boeung Trabek 水路の取り組み事例 ～」から得られた知見や私の所感等を述べてきました。プロジェクトは途中、新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の世界的な流行の影響を受け、2019年1月から2023年3月までの長期に渡る活動となりましたが、自分自身でも納得のできる取り組みであったと思います。

さまざまにご支援・ご指導・ご鞭撻いただきました関係者の皆様に感謝申し上げます。

また、このような取り組みができたのも、北九州市チームの全員が意識を統一した結果であり、それぞれの持ち分を活かして役割分担しつつ、着実に実施した協働の賜物です。ともに活動してきた北九州市チームの皆様に深く感謝申し上げます。

さいごに、今回のプロジェクトを通じて、改めて大切であると実感した言葉があります。一部コラムで述べており重複しますがご容赦ください。

- ① 『俺が俺がの我を捨てて、おかげおかげの下で生きる』
- ② 『やってみせ、言って聞かせて、させてみせ、ほめてやらねば、人は動かじ』
- ③ 『セレンディピティを大切にしたい』

以上